

福島の子どもたちと  
家族の笑顔のための保養プログラム

# 福島ぽかぽか プロジェクト

## 2016 年度報告書

□福島ぽかぽかプロジェクト事務局：国際環境 NGO **FoE Japan**

〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9 TEL：03-6909-5983

担当：矢野恵理子 090-9364-6472 eri8888yano@gmail.com

□運営団体：渡利の子どもたちを守る会 / 福島老朽原発を考える会（フクロウの会） / 国際環境 NGO FoE Japan

□協力：公益財団法人共生地域創造財団 福島に心を寄せる房総の会



福島ぽかぽかプロジェクトは、子どもたちがのびのび遊び、お母さん方が悩みを分かち合う場を提供しています。

# ことしの ぽかぽか

福島原発事故から6年目の2016年度は、福島関連の報道も減り、私たちは何事もなかったような日常生活を送っています。

ところが、「福島ぽかぽかプロジェクト」(以下「ぽかぽか」)は、積極的な募集をしていないにも関わらず、問い合わせが増えてきております。ぽかぽかは約60%のリピート率ですが、今年は中通りからだけでなく、浜通りからの参加もあり、広い地域からお友だちの紹介で新しい参加者も増えてきております。

本来、「原発事故子ども・被災者支援法」に法り、国の制度としてすべての子どもたちに保養の機会が保障されることが望ましいのですが、現段階では私たち市民レベルでの保養を1団体でも多く、1年でも長く継続することが求められています(保養実態調査※参照)。また、国と福島県による帰還政策の中、避難先から戻らざるをえなかった家族は、懸命に保養に出かけたいため、ぽかぽかに応募や問い合わせが増えているようです。

他の保養団体やぽかぽか参加者のみなさんと力を合わせて国や福島県へ保養の必要性を提言していく事も2017年度の大切な活動になります。

また、2016年ドイツ交流会に行った若者を中心に、福島で暮らす高校生や若者たちに積極的に加わってもらって、新たな活動を始めたり、お母さんお父さんスタッフにどんどん参加していただき、福島の人たちが本当に必要な保養を目指していく転機にきていると思います。

※『原発事故に伴う保養実態調査 調査結果報告書 2016年7月』リフレッシュサポート/311受け入れ全国保養ワーキンググループ監修:234団体にアンケートを送付、107団体より回答(回収率45.7%)。1年間で9,000人が保養に参加している結果が出た。

## 2016年度実施概要

|          |           |        |               |
|----------|-----------|--------|---------------|
| 2016年    | 4月29～5月1日 | 猪苗代    | 16名           |
|          | 5月3～5日    | 猪苗代    | 25名           |
|          | 6月18・19日  | 猪苗代    | 15名           |
|          | 7月16～18日  | 猪苗代    | 21名           |
|          | 8月11～17日  | 南房総    | 25名(ふくしまっ子事業) |
|          | 9月17～19日  | 猪苗代    | 24名           |
|          | 10月29・30日 | 猪苗代    | 17名           |
|          | 11月19・20日 | 猪苗代    | 26名           |
|          | 2017年     | 1月5～9日 | 猪苗代           |
| 3月18～20日 |           | 猪苗代    | 24名(みそ作り)     |
| 3月25～29日 |           | 南房総    | 18名           |

猪苗代9回/南房総2回  
合計11回 参加者239名

※ふくしまっ子事業とドイツ交流事業は  
福島ぽかぽかキッズが主催しました。

### ドイツ交流事業

|           |           |
|-----------|-----------|
| 2月12日     | 学習会開催     |
| 3月24～26日  | 猪苗代合宿     |
| 4月21～5月2日 | 訪独        |
| 5月21日     | 報告会(東京)   |
| 9月24日     | 福島報告会(福島) |



# ぽかぽかが大切に していること

## 1 家族の輪

『ぽかぽかハウス』は旧ペンションを利用しており、10部屋に分かれているため、赤ちゃんがいたり、パパと一緒に遠慮なく過ごせます。また兄弟姉妹の多い家族や子どもの年齢差のある家族が気兼ねなく過ごせます。

## 2 必要以上に叱らない

「ぽかぽか」の大切なお約束は、「静かにください!」と言ってはいけないこと。ママもパパも普段子どもを叱りすぎています。他の家族と一緒にだと気を使って、もっと叱ってしまいがち。大人が叱らなくなると、子どもたちが生き生きし、大人もだんだん穏やかになり、みんなが自然に笑顔になります。ママがやさしい顔になるのです。

## 3 食に気をつかう

「ぽかぽか」では、共生地域創造財団のご協力により、安心・安全な食材の支援を受け、野菜をたっぷり使い、免疫力を上げるため添加物の少ない料理をみんなで作ります。

## 4 みんなで調理・みんなで掃除

キッチンで話をしながらの調理では、子どもの健康の話や世代間の悩みなどの日常の話、食生活の話もします。また、子どもたちも良くお手伝いし、材料を用意しておけば、自分たちでデザートを作ったりします。大勢で食べる食事は楽しくて、いつも食べないお野菜も食べたりします。前もって連絡頂ければアレルギーの対応もします。自炊タイプの保養ですので、お料理やお片付けはもちろん、最終日のお掃除もみんなでします。

## 5 尊重する

放射能に関しても、子育てに関してもいろいろな考え方があります。「ぽかぽか」は、避難したくても家の事情でできなかった人や、避難から帰ってきた人、保養も必要だと思っている人、そうでない人、いろいろな考え方を認め合うことにより、自分の考え方を伝えることができる環境を大切にしています。子育てもおなじです。一人として同じ子どもはいません。障がいがある子もそうでない子のびのびと過ごせる環境を目指しています。

## 6 知る

メディアに取り上げられる情報、隠されてしまう情報、何を信じたらよいかわからない社会の中で、健康に関して、福島に暮らすことに関して、たくさんの情報を伝えたいと、様々な専門家をお呼びしてセミナーや相談会を開催しています。腸内細菌や免疫力に関するセミナーも開催します。発酵食品の勉強をしながら、おみそ作りにも挑戦しています。

## 7 参加者からスタッフへ

はじめは参加者としてぽかぽかに来ていて、現在はボランティアスタッフとして手伝ってくれている高校生が10名を超えました。リピーター参加者からスタッフになってくださったお父さんお母さんもいます。これから長く続けていかなくてもならない保養プログラムのためにも、福島の方々が運営にも参加して下さることはとても心強く、大切なことです。













# 参加者の声

今回は2回目のぼかぼか利用でした。小3、小1、3歳双子の四人の子どもと参加しました。今回は、ぼかぼかハウスに着いてすぐに子供たちは雪遊びを始めました。そりすべりをしたり、雪に飛び込んだり、とても楽しそうでした。そして、午後から猪苗代スキー場へ連れて行っていただき、スキー場では小学生の娘たちは初スキーに挑戦しました。なかなか思うようには出来なかったけれど、次回に繋がるとてもいい経験をさせていただきました。3歳の息子は、初対面の小学6年生のお姉さんに付きっきりでそりすべりをしてもらいました。去年までは怖くて出来なかったのに、スピードが出て怖がらず、笑いながらそりすべりを楽しんでいる姿にとっても嬉しくなりました。子ども四人を連れてスキー場に行くことは困難ですが、スタッフの皆さんや、参加者の皆さんに手をかしていただきながら、母子ともにとても楽しむことが出来ました。すぐに弱音を吐く子どもたちが、休憩もせず遊ぶ姿に感動しました。子ども四人を連れて母子保養に出ることは、不安と緊張が付き物です。特に3歳の双子にまだ手がかかるので、周りに迷惑をかけてしまうのではないかと思うことがあります。ですが、ぼかぼかでは大人も子どもたちも、みんな温かく手をかして下さるので安心して参加することが出来ます。本当にありがとうございました。また参加させていただきたいです！



子どもたちがゲレンデで時間も忘れて、そり遊びや、スキーの練習にとりくめて、福島市街地では経験出来ない楽しい自然の中での活動をさせていただいたと思います。また来年もぜひ参加させていただきたいです。



日常の慌ただしさに紛れてしまっていますが、ぼかぼかでリフレッシュした日々を写真をみながら思い出しています。

いつもの私は、怒りっぽくてイライラしてて、トゲトゲの言葉を家族に投げかけてばかりです。でも、ぼかぼかにいる間、ほとんどそういう自分が出てこなかったんです。それは、イライラの必要がなかったから。猫を被っていたのは本当に少しだけ。ぼかぼかの日々を思い出すと、あの時の穏やかな気持ちも蘇ってきます。きっと、ボランティアの方たちが美味しいご飯を作ってくれて、そして子どもをずーっと見ていてくれたから。ご家族に恵まれて、いつも笑いが絶えない楽しい保養だったから。あのぼかぼかな空気を作ってくれているスタッフさん、ボランティアの皆さん、すごいです！みなさまのおかげで、楽しい5日間を過ごせました。初めての参加でしたが、素敵な皆さんに会えて凄く嬉しいです。毎日笑って～、笑いの絶えない日でした。本当にありがとうございました。

私もぼかぼかでみんなに出会っていっぱい笑って、うれし泣き。楽しかった～ボランティアやスタッフさんに助けてもらえた5日間、貴重な時間をありがとうございました。

震災当年から、「ぼかぼか」にもとてもお世話になって、今は少しでもお返しがしたく、スタッフとしても関わりをもっています。原発被害があったことを前提に、家族を受け入れてくれるので、福島での暮らしの不安や子どもの成長の悩みなども、安心して相談できます。子どもも親も、のびのびと自然の中で遊び、精神的にも解放されます。六年を目処に保養や援助も削減される一方で、福島を思ってくださいるかたがたがいることで、とっても力をいただきます。

鳥博士のお話もとてもおもしろく、巣箱を通してこれから鳥がやって来るのを楽しみにしている姿から、自然のことやこれからの福島の自然についても興味を持って、いろいろ行動してくれる大人になってくれたら素晴らしいなと思いました。大人としても鳥博士の取り組みは素晴らしいと思ひ感銘を、うけました。



冬は特に、母子共に家の中にもこもりがちになり、外遊びを存分にさせてあげられずにいました。スキー場では、ソリ遊びを存分に！スケート場は子どもたちにとって初めての経験となりました。家にこもったままでは出来なかった体験や想いを経験させていただき、そこでの出会いも貴重なものとなりました。



# ドイツに 行ってきました

ドイツのヘンリッヒベル財団から、欧州アクションウィーク「福島とチェルノブイリ後の未来」の一環として、福島とベラルーシの若者をドイツに招待したいとのお話をいただき、福島ぽかぽかプロジェクトの参加者、参加者の家族から、5名がドイツを訪問しました。勉強会、猪苗代での合宿を経て、5名は4月21日～5月2日ドイツの北部シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州レンツブルク(Rendsburg)を訪れ、チェルノブイリや福島のことをドイツの高校生と学んだり、自然エネルギー発電所の見学等、交流事業に参加しました。



僕はドイツに行きたくさんのことを学びました。そこですぐ思ったことは日本では放射能の危険さ、原発事故の被害の大きさを教えていないことです。

ドイツの人たちは普段から放射能の授業などを受けていて放射能の危険さを学んでいました。僕は日本で放射能の危険さや放射線作業員の今の現状をしっかりと正確に教えたほうが良いとおもいました。

日本人は社会の問題にどれくらい関心をもっているだろうか。

私はドイツに行って、ホストファミリーや学校の友達に自分の意見を聞かれた時、うまく伝えることができませんでした。政治について、経済について、自分の将来について、原発について、いろいろ聞かれたけれど、自分が何をしたくてどんな風になりたいのか、自分の考えを持っていなかったのです。その時まで日本の社会問題に対して関心も薄かったし、考えたこともあまりなかったことに気づかされました。そのことは私にとって、とても恥ずかしかったし、悔しかったです。日本で生活していると、友達や家族のなかで社会問題について話す機会はほとんどありません。日本に住んでいる人ももっと社会のできごとに関心をもち、「誰かがどうにかしてくれる」じゃなくて「私はこうしたい」という意思のある人が増えれば良いと思います。

# ぽかぽか プロジェクトの 背景と経緯

FoE Japan は、原発事故直後から、避難基準として採用された年 20 ミリシーベルトは撤回し、少なくとも公衆の被ばく限度「年 1 mSv」以上の地域については、避難してもとどまっても支援・賠償が受けられる「選択的避難区域」を設けて、幅広く「避難の権利」を認めるべきであるとし、運動を展開してきました。しかし、日本政府は「年 20mSv 以下の地域では避難の必要はない」という方針を変えず、結果として、避難したくてもさまざまな理由で避難できない人たちが取り残されてしまうという自体が生じました。こうした事態を受け、FoE Japan は、他団体と協力して 2012 年 1 月より「福島ぽかぽかプロジェクト」という週末保養プログラムを開始した。

2013 年 4 月より、拠点土湯温泉から猪苗代に移し、対象を福島県全域に広げた。現在、猪苗代での週末保養・千葉県南房総での春・夏の長期保養を含め、年 10 回～12 回保養プログラムを実施しています。2013 年からの参加者は累計 780 人となりました。2015 年 1 月より、猪苗代での保養の拠点にしてきた元ペンションを FoE Japan が借り受け、「ぽかぽかハウス」として、他団体の保養プログラムの場所としても活用しています。

現在では、「ぽかぽかプロジェクト」に参加した子どもたちが成長し、高校生ボランティアとして関わっています。2016 年 4 月には、高校生たちがドイツに滞在し、ドイツやベラルーシの若者たちと交流するなど、子どもたちが視野を広げ、生きる力を身につける場所ともなっています。

「福島ぽかぽかプロジェクト」ブログ  
<http://ameblo.jp/pokapro/>

# 2017年度の 実施予定

## 猪苗代

4月29日～30日 (1泊2日)  
5月3日～7日 (4泊5日)  
6月10日～11日 (1泊2日)  
7月15日～17日 (2泊3日)  
9月16日～18日 (2泊3日)  
11月18日～19日 (1泊2日)

## 2018年

1月5日～8日 (3泊4日)  
3月24日～26日 (2泊3日)

## 南房総

8月11日～17日 (6泊7日)



2016年度の『福島ぼかぼかプロジェクト』は、多くのみなさまのご寄付により実現しました。

改めて心より御礼申し上げます。

福島の子どものための保養はまだ必要です。引き続き温かいご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

## ご支援、ご寄付のお願い

★税制優遇を受けることが可能です★

### 郵便振替

郵便振替口：00130-2-68026 口座名：FoE Japan

※「ぼかぼか寄付」とご明記の上、差支えなければ、住所、氏名をご記入ください。

### 銀行振込

振込先：三菱東京UFJ銀行 目白支店 普通3932089

エフ・オー・イー・ジャパン

※送金後、メールまたは電話にて事務局までご連絡ください。

### ボランティアのお願い

ぼかぼか実施時に、猪苗代や南房総に来て、子どもたちと遊んでくださる方、キッチンでお母様方と一緒に食事を作って下さる方を大募集しております。往復の高速バス代、宿泊代、食費はご用意いたします。

### お問合せ先

福島ぼかぼかプロジェクト事務局：国際環境 NGO FoE Japan 〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9

TEL：03-6909-5983 担当：矢野恵理子 090-9364-6472 eri8888yano@gmail.com

ぼかぼかブログ：<http://ameblo.jp/pokapro/>